第61回東海北陸地方放送教育研究会

第55回放送教育特別研究大会愛知県

第4部会　メディア研究部会

提案者

提案１ 久村　 優（県立守山高等学校）

提案２ 田代 悠子（名古屋市立緑高等学校）

助言者 　山田 公一  氏（愛知県総合教育センター研究部経営研究室）

提案１（概要）

生徒がICTを簡単で身近なものとして 認識し、活用方法を楽しみながら理解できるよう「総 合的な探究の時間」の中で段階的に取り組んだ実践が 報告された。具体的には、コロナ禍での「３年生を送る会」で体育館と教室をオンラインで繋いだライブ中 継、その次の段階としてICTとスマホを連携させて学 校全体でゲームやクイズ大会を行った。コミュニケー ションツール以外の使用方法を知って楽しむことがで き、目標を達成できた。

提案２（概要）

英語科において、ICTを活用してリアリア（実物教材）である国内外のニュース メディアを使用した言語活動を行い、英語学習の関心・意欲を高める取り組みと実践について報告された。一人一台端末以前の令和３年度からの取り組みと学習者への効果を時系列で比較し、 ICTによるリアリアのより効果的な活用法を考察した。その中で、スピーキングにおいてペアグ ループの会話を録音させて自分のスピーキングを振りかえりやすくする工夫や、コロナ禍による 海外の無料教師用アプリの積極的活用方法についても紹介された。 助言者からは、メディアやICTを活用した単元構想や授業準備を進めると、予定調和な授業に なりがちで、生徒の新たな気づきや主体性の芽を摘む場面が出てくることもあるが、大切なのは 学習者を中心とした授業デザインであり、生徒の成長や変容を読み取って次の手立てに生かすことが必要であること、コロナ禍や国際情勢の不安定化など未来の予測が難しい時代において、能 動的に学び続ける人材を育成するために、教師が「教えるプロ」だけではなく「学びのプロ」と して生徒に意欲の火をつけるトリガーになることが肝要である、とのお言葉をいただいた。